

日本航空株式会社 2016年3月期第2四半期 決算説明会



2015年10月30日

代表取締役社長
取締役専務執行役員

植木義晴
齊藤典和



2016年3月期第2四半期 業績概要

P.2



2016年3月期業績予想の修正

P.3



中期経営計画の進捗

P.4



2016年3月期第2四半期 業績詳細

P.5～



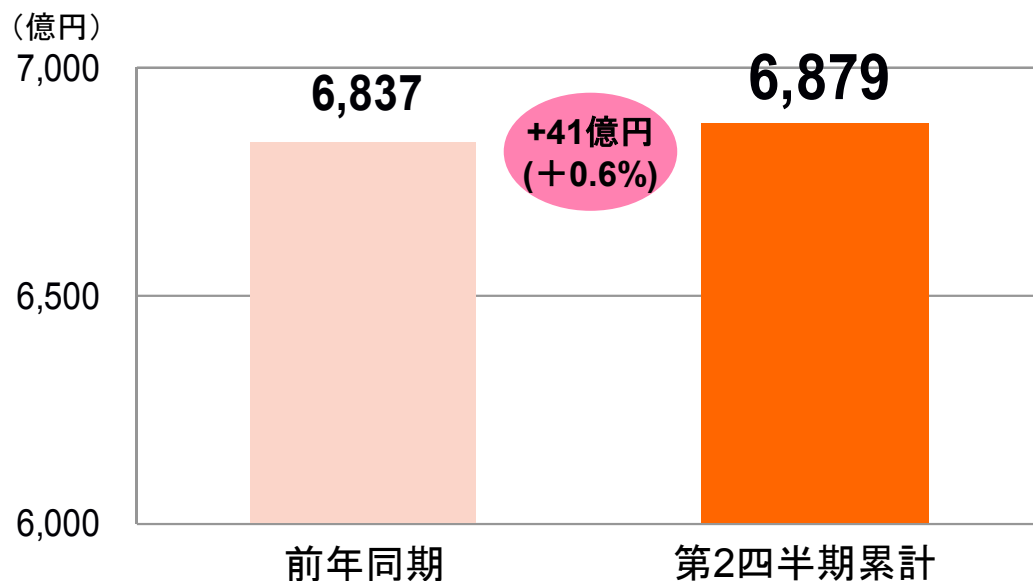
参考資料

2016年3月期第2四半期 業績概要

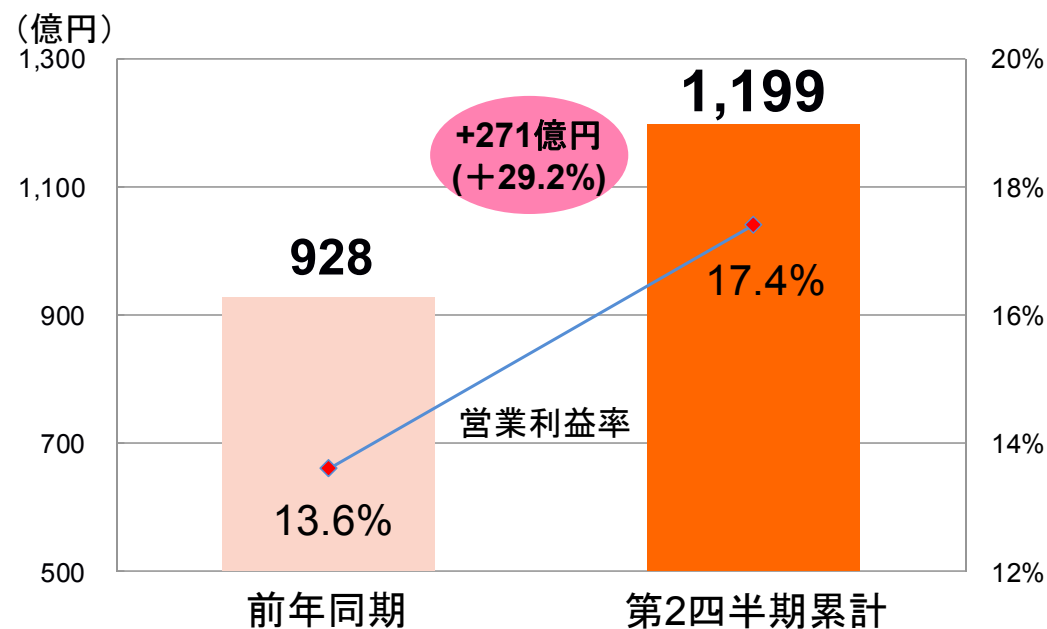


JAPAN AIRLINES

営業収益



営業利益



燃油・為替市況実績

	前年同期	第2四半期 累計	前年同期比
為替 (円/USD)	102.2	121.8	+19.2%
シンガポールケロシン (USD/bbl)	119.4	69.5	▲41.8%
ドバイ原油 (USD/bbl)	105.1	57.1	▲45.7%

- ✓ 国際線・国内線の増収および燃油市況の下落等により増収増益となり、営業利益は1,199億円
- ✓ 営業利益率は17.4%となり目標とする営業利益率水準(10%以上)を上回って好調に推移

- 2016年3月期第2四半期の営業収益は、国際線・国内線の増収等により前年対比0.6%増加し6,879億円となりました。
- 一方、営業利益については、円安の影響は受けたものの、燃油市況の大幅下落等により対前年271億円増加し1,199億円となりました。営業利益率については17.4%となり、目標とする10%以上の水準を上回り好調に推移しております。

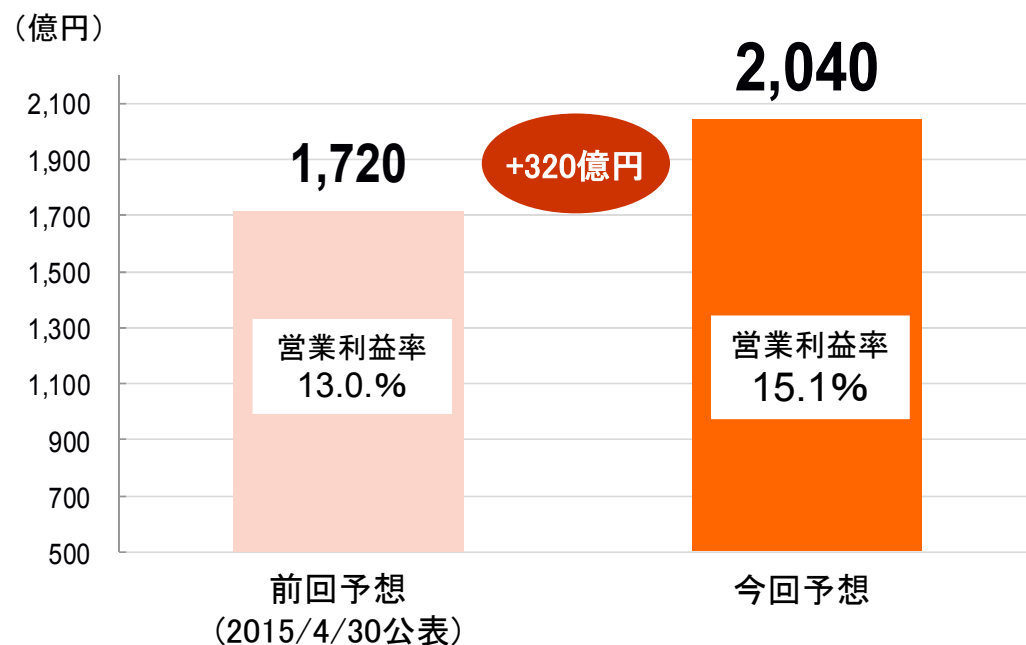
2016年3月期通期業績予想の修正



JAPAN AIRLINES

業績予想の上方修正

営業利益



- ✓ 第2四半期までの実績および為替・燃油見通し等を勘案し、通期業績予想を修正

	前回予想	今回予想	差額
営業利益	1,720億円	2,040億円	+320億円
当期純利益 ^(*)	1,440億円	1,720億円	+280億円

(*)親会社株主に帰属する当期純利益

燃油・為替前提	FY14 実績	FY15 今回予想	前回予想 (2015/4/30公表)
為替(円/USD)	108.4	123.4 (下期125.0)	118.0
シンガポールケロシン (USD/bbl)	103.5	70.3 (下期71.0)	80.0
ドバイ原油 (USD/bbl)	87.6	56.1 (下期55.0)	63.0

配当金予想について

- ✓ 2016年3月期の配当金予想は、業績見通しがより明らかになった段階で随時開示予定

- 今年度の営業利益予想は4月30日に発表した当初予想の1,720億円から320億円引き上げ、2,040億円へ上方修正いたします。営業利益率については、15.1%となる見込みです。
- また、当期純利益につきましても、280億円上方修正し1,720億円を見込んでおります。
- 下期の為替市況の前提については1ドル125円としており、燃油市況の前提については、シンガポールケロシンを71ドル、ドバイ原油を55ドルとしております。
- 配当金予想については業績見通しがより明らかになった段階で随時開示させていただく予定です。

国際線

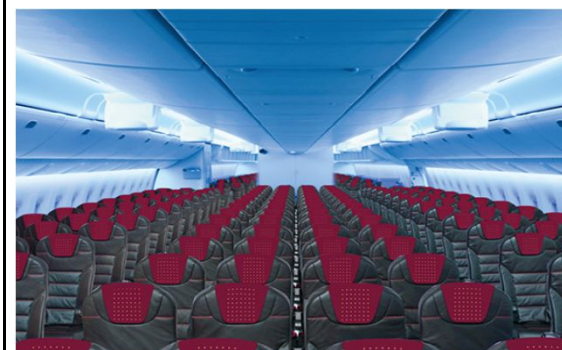
国内線

商品・サービスの強化



【SKYTRAX 社ワールド・エアライン・アワード】

- ✓ 2013年「ベスト・ビジネスクラス・エアラインシート」賞受賞
- ✓ 2015年「ベスト・エコノミークラス・エアラインシート」賞受賞



JALは挑戦する。新しい国内線へ。

ひとつ先のスタンダード

JAL SKY NEXT

JAL
CAFÉ
LINES

GOOD
DESIGN

JAL SKY Wi-Fi

- ✓ FY15第2四半期末までに対象機の約6割を改修済
- ✓ FY16末までには対象全77機を改修予定

路線・ネットワークの拡充

- ✓ 関西＝ロサンゼルス線開設
2015年3月20日～（787-8型機）
- ✓ 羽田＝上海（浦東）、広州線開設 北京線増便
2015年10月25日～（767-300ER型機）
- ✓ 成田＝ダラス・フォートワース線開設
2015年11月30日～（787-8型機）

FY15 冬期スケジュールでの増便路線一覧

区間	変更前	変更後	期間
羽田＝関西	1日2便	1日3便	2015/10/25～2016/3/26
羽田＝長崎	1日6便	1日7便	2015/10/25～2016/3/26
新潟＝新千歳	1日2便	1日3便	2015/10/25～

- 国際線では多くのお客様にご好評いただいております「JAL SKY SUITE」の導入を、引き続き進めております。SKYSUITEのエコノミークラスは、2015年「ベスト・エコノミークラス・エアラインシート」賞をSKYTRAX社より受賞いたしました。
- 国内線においては、ご好評をいただいております「JAL SKY NEXT」の導入を進めており、計画通り、来年度末までには対象となる全機材(77機)の改修が完了する予定です。
- 路線・ネットワーク面では、関西国際空港からロサンゼルスへの便を3月に開設したほか、羽田空港発着の中国路線を10月25日より拡充いたしました。また、11月末からは、成田＝ダラス・フォートワース線を開設する予定です。

第2四半期業績 詳細



取締役専務執行役員
齊藤典和

連結経営成績



JAPAN AIRLINES

2016年3月期 第2四半期 連結経営成績

(単位: 億円)	前年同期	第2四半期 累計	前年 同期比	第2四半期 ⁽⁵⁾	前年同期比
営業収益	6,837	6,879	+0.6%	3,758	▲0.2%
航空運送連結	6,093	6,202	+1.8%	3,377	+0.8%
営業費用	5,909	5,679	▲3.9%	2,921	▲3.4%
航空運送連結	5,267	5,108	▲3.0%	2,606	▲2.7%
営業利益	928	1,199	+29.2%	837	+12.8%
航空運送連結	826	1,094	+32.4%	771	+14.5%
営業利益率 (%)	13.6%	17.4%	+3.9pt	22.3%	+2.6pt
経常利益	916	1,226	+33.7%	834	+11.6%
四半期純利益 ⁽¹⁾	803	1,033	+28.7%	707	+8.0%
ASK(百万席キ口)	42,479	42,506	+0.1%	21,525	▲0.7%
RPK(百万人キ口)	30,324	31,515	+3.9%	16,494	+2.6%
EBITDAマージン (%) ⁽²⁾	19.8%	23.8%	+3.9pt	28.1%	+2.7pt
EBITDARマージン (%) ⁽³⁾	21.7%	25.5%	+3.8pt	29.7%	+2.6pt
ユニットコスト(円) ⁽⁴⁾	8.7	9.1	+0.4	9.2	+0.6
燃油費含む	12.4	12.0	▲0.4	12.1	▲0.2

- ✓ 営業収益は前年比+0.6%の6,879億円
- ✓ 営業利益は前年比+29.2%の1,199億円
- ✓ 営業利益率は17.4%
- ✓ 経常利益は前年比+33.7%の1,226億円
- ✓ 四半期純利益は前年比+28.7%の1,033億円

注: (1)親会社株主に帰属する四半期純利益

(2)EBITDAマージン=EBITDA/営業収益 EBITDA=営業利益+減価償却費

(3)EBITDARマージン=EBITDAR/営業収益 EBITDAR=営業利益+減価償却費+航空機材賃借料

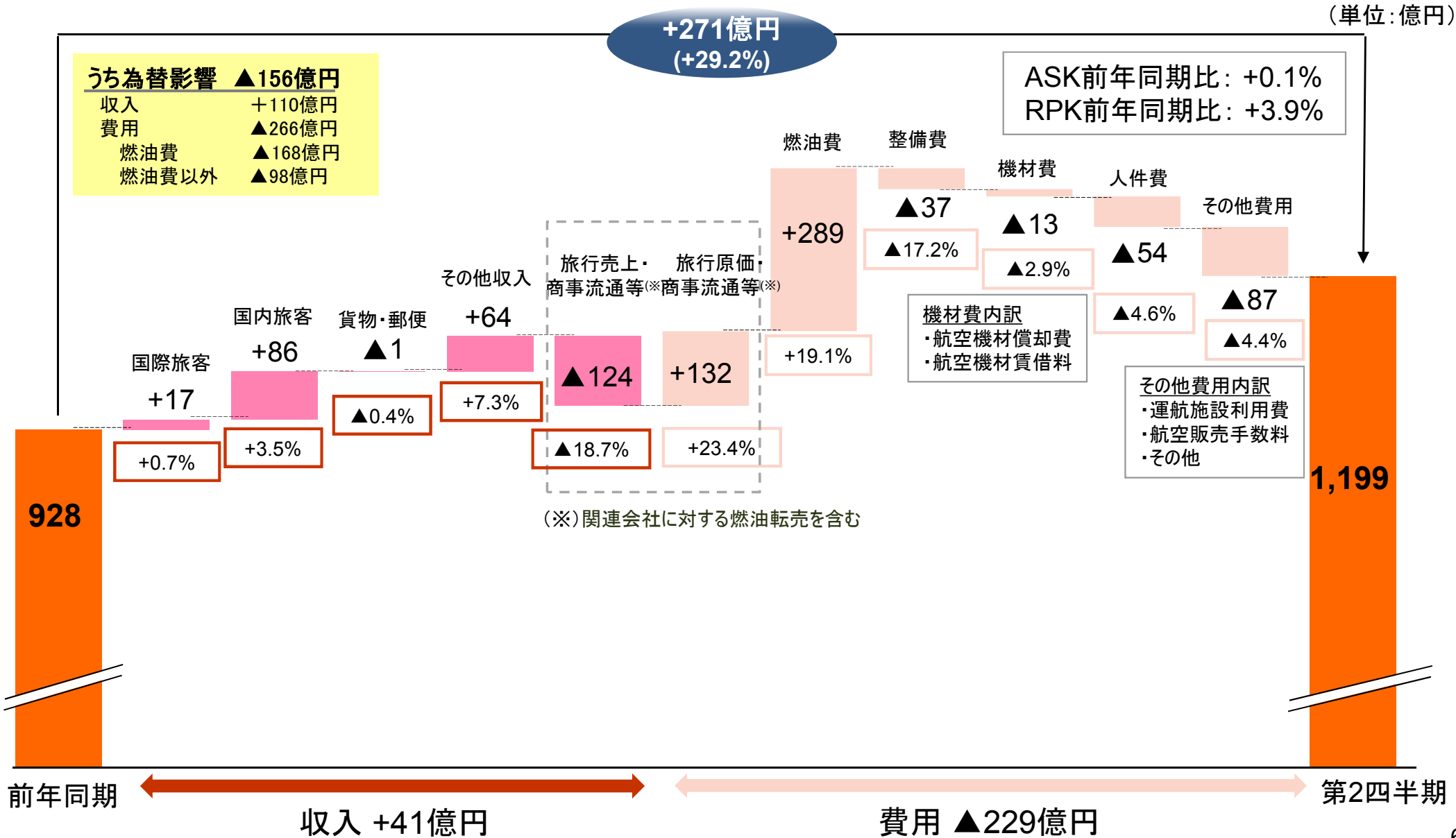
(4)ユニットコスト=航空運送連結費用(燃油費、収入費用両建ての関連会社向け取引を除く)/ASK

(5)第2四半期(7-9月)の実績は第2四半期累計実績(4-9月)から第1四半期(4-6月)の実績を差し引いて算出

- 営業収益につきましては、第2四半期累計で、前年同期に比べ0.6%増加の6,879億円となりました。
- 営業費用につきましては、前年同期比3.9%減少し5,679億円となりました。
- 結果、第2四半期累計の営業利益は1,199億円となり、売上高営業利益率は17.4%、EBITDARマージンは25.5%となりました。

2016年3月期 第2四半期累計

(単位: 億円)



- 収入面では国際旅客・国内旅客の好調により、前年対比41億円の増収となりました。
- 収入のうち、国際旅客収入はインバウンド需要の増加、為替影響等により合計17億円の増収となりました。国内旅客収入は、個人旅客収入の増加や、シルバーウィーク期間中に多くのお客さまにご利用頂いたことなどから、前年対比86億円の増収となりました。
- 費用面では、燃油市況が大幅に下落したことから、前年対比229億円減少しました。

国際旅客事業(輸送実績)



JAPAN AIRLINES

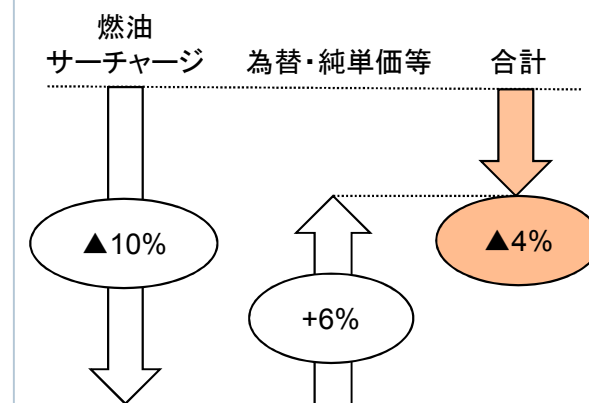
国際旅客事業の状況

	前年 同期	第2四半期 累計	前年 同期比	第2四半期 ⁽¹⁾	前年 同期比
旅客収入 (億円)	2,339	2,356	+0.7%	1,261	▲0.4%
ASK (百万席キロ)	23,988	24,239	+1.0%	12,231	▲0.2%
RPK (百万人キロ)	18,185	19,309	+6.2%	9,951	+3.8%
有償旅客数 (千人)	3,895	4,093	+5.1%	2,085	+1.7%
座席利用率 (%)	75.8%	79.7%	+3.9pt	81.4%	+3.1pt
イールド ⁽²⁾ (円)	12.9	12.2	▲5.1%	12.7	▲4.0%
ユニットレベニュー ⁽³⁾ (円)	9.8	9.7	▲0.3%	10.3	▲0.2%
単価 ⁽⁴⁾ (円)	60,055	57,574	▲4.1%	60,495	▲2.1%

✓ 旅客収入は2,356億円となり前年比+0.7%の増収

✓ ASKは前年比+1.0%、RPKは前年比+6.2%となった結果、座席利用率は+3.9ptの79.7%

単価変動要因(概算)



注: (1)第2四半期(7-9月)の実績は第2四半期累計実績(4-9月)から第1四半期(4-6月)の実績を差し引いて算出

(2)イールド=旅客収入/RPK

(3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

(4)単価=旅客収入/有償旅客数

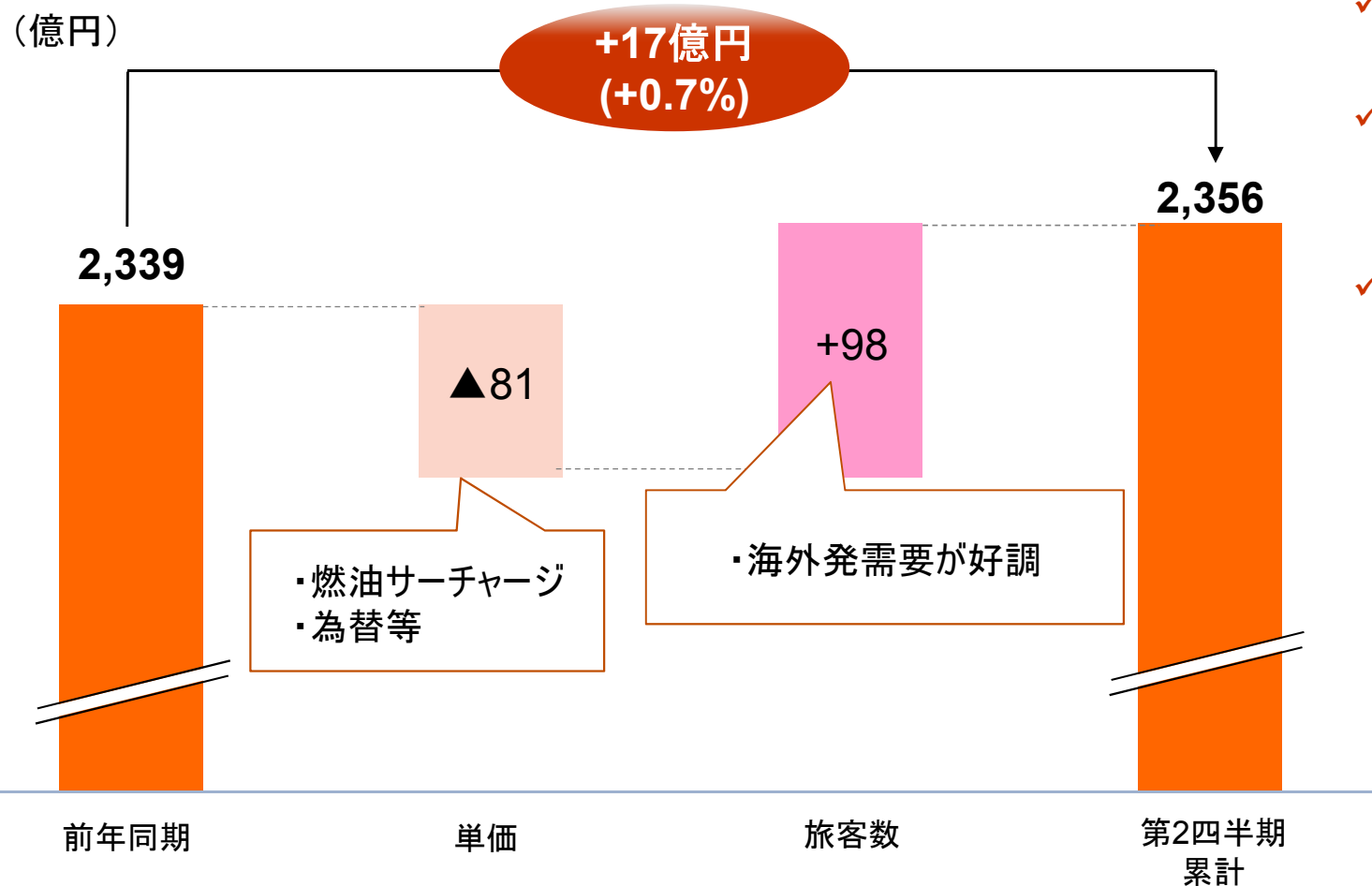
- 国際線におきましては、ASKは前年対比1.0%増加、RPKは旺盛なインバウンド需要を獲得したことなどから6.2%増加した結果、座席利用率は3.9ポイント上昇の79.7%となりました。
- 単価は4.1%減少いたしましたが、右下の図にある通り、燃油サーチャージが約10%減少したことを考慮すると、燃油サーチャージを除いた為替・純単価は約6%増加したものと試算しております。
- なお、単価については第2四半期単独では2.1%の減少ですが、第1四半期の6.2%の減少からは減少幅が改善しております。

国際旅客事業(旅客収入の推移)



JAPAN AIRLINES

2016年3月期 第2四半期累計



- ✓ 燃油サーチャージ減により単価下落
- ✓ JAL SKY SUITE 777/767/787導入拡大、円安は単価向上に寄与
- ✓ 中国、東南アジア線を中心として海外発需要が大きく伸張

- 単価要因では、燃油サーチャージ収入の減少があったものの、円安効果や純単価が上昇したことから、単価の下落を一部相殺しました。
- 旅客数要因では、中国、東南アジア線を中心に、引き続きインバウンド需要が増加しました。
- 以上より、国際旅客収入は、前年対比で0.7%増加の2,356億円となりました。

国内旅客事業(輸送実績)



JAPAN AIRLINES

国内旅客事業の状況

	前年 同期	第2四半期 累計	前年 同期比	第2四半期 ⁽¹⁾	前年 同期比
旅客収入 (億円)	2,481	2,568	+3.5%	1,469	+3.1%
ASK (百万席キロ)	18,490	18,267	▲1.2%	9,293	▲1.4%
RPK (百万人キロ)	12,138	12,205	+0.6%	6,542	+0.9%
有償旅客数 (千人)	15,952	16,082	+0.8%	8,544	+1.3%
座席利用率 (%)	65.6%	66.8%	+1.2pt	70.4%	+1.6pt
イールド ⁽²⁾ (円)	20.4	21.0	+2.9%	22.5	+2.2%
ユニットレベニュー ⁽³⁾ (円)	13.4	14.1	+4.7%	15.8	+4.6%
単価 ⁽⁴⁾ (円)	15,558	15,967	+2.6%	17,193	+1.9%

- ✓ 旅客収入は前年比+3.5%の2,568億円
- ✓ ASKが前年比▲1.2%に対し、RPKは+0.6%。座席利用率は1.2pt上昇し66.8%
- ✓ イールドは前年比+2.9%、単価は前年比+2.6%

注: (1)第2四半期(7-9月)の実績は第2四半期累計実績(4-9月)から第1四半期(4-6月)の実績を差し引いて算出

(2)イールド=旅客収入/RPK

(3)ユニットレベニュー=旅客収入/ASK

(4)単価=旅客収入/有償旅客数

- 国内線におきましては、ASKは前年対比1.2%減少したものの、RPKが0.6%増加した結果、座席利用率は1.2ポイント上昇の66.8%となりました。
- レベニューマネジメントの効果などにより、イールドは前年対比2.9%増加、単価が2.6%増加したため、国内旅客収入は前年対比3.5%増加の2,568億円となりました。

国内旅客事業(旅客収入の推移)



JAPAN AIRLINES

2016年3月期 第2四半期累計

(億円)

+86億円
(+3.5%)

2,568

+22

+64

2,481

・需要喚起
・訪日外国人増、等

・レベニューマネジメント
・高需要期における高単価旅客増

前年同期

単価

旅客数

第2四半期
累計

- ✓ レベニューマネジメントによる
需要構成変化
 - ・JAL SKY NEXTが好評
 - ・個人旅客の増加
- ✓ 高需要期(シルバーウィーク等)における
高単価旅客増
- ✓ 需要喚起策の実施などによる旅客増
 - ・「ウルトラ先得」の新設(2015年4月14日～)
 - ・訪日外国人旅行者の増加

- 単価要因では、レベニューマネジメントによる需要構成の変化、高需要期における高単価旅客の増加などから、前年対比64億円の増加となりました。
- 旅客数要因では、ASKが前年対比1.2%減少したにもかかわらず、「ウルトラ先得」の新設や、訪日外国人旅行者の増加などにより、前年対比22億円の増加となりました。

主要営業費用項目



JAPAN AIRLINES

営業費用内訳

(単位: 億円)	前年同期	第2四半期 累計	前年差	前年 同期比	第2四半期 ⁽¹⁾	前年差
燃油費	1,514	1,225	▲289	▲19.1%	626	▲152
運航施設利用費	408	415	+6	+1.7%	211	+2
整備費	215	252	+37	+17.2%	138	+35
航空販売手数料	119	124	+4	+3.8%	63	+1
航空機材償却費	331	354	+23	+6.9%	178	+13
航空機材賃借料	131	122	▲9	▲7.2%	60	▲3
人件費	1,174	1,228	+54	+4.6%	615	+27
旅行原価・商事 流通等 ⁽²⁾	568	435	▲132	▲23.4%	252	▲64
その他	1,444	1,520	+76	+5.3%	774	+37
営業費用計	5,909	5,679	▲229	▲3.9%	2,921	▲102

✓ 円安およびサービス強化のための一部コスト増はあるものの、経費削減努力を継続中

✓ 燃油費は市況下落等により289億円減少(うち、円安影響で168億円増加)

✓ 整備費は円安影響で増加

✓ 人件費はベースアップおよび為替影響等により、前年比+4.6%の1,228億円

ASK前年比: +0.1%

注: (1) 第2四半期(7-9月)の実績は第2四半期累計実績(4-9月)から第1四半期(4-6月)の実績を差し引いて算出

(2) 関連会社に対する燃油転売含む

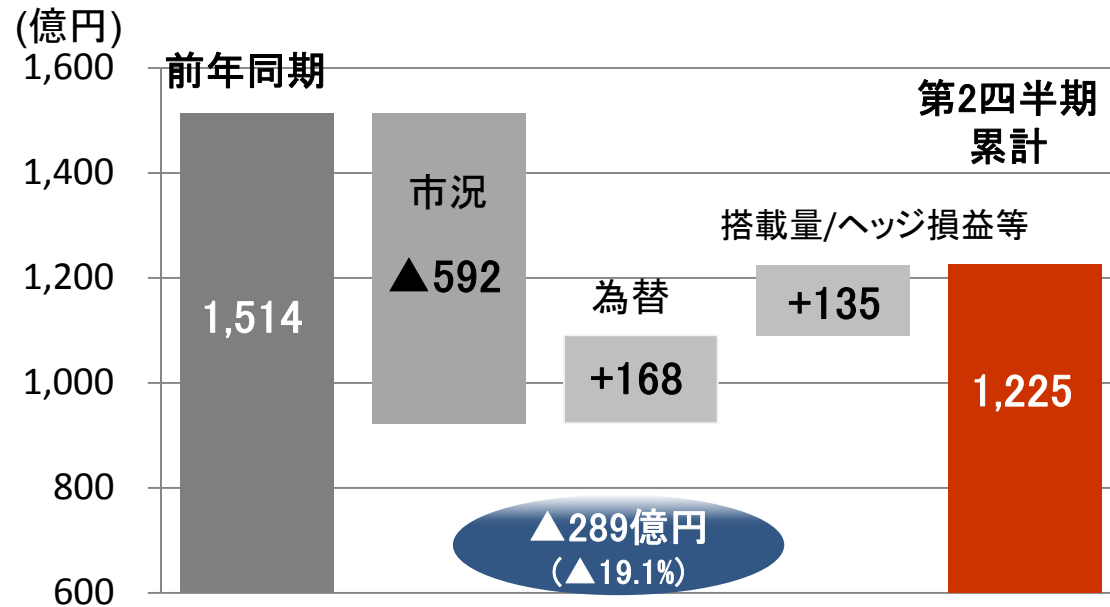
- 円安およびサービス強化のための一部コストの増加はありましたが、経費削減努力を継続しております。
- 燃油費は289億円減少の1,225億円となりました。
- 整備費については、主として円安に伴い、増加しました。
- 人件費は、ベースアップの実施や為替影響等により、前年対比54億円増加いたしました。
- 営業費用全体では前年対比3.9%減少の5,679億円となりました。

燃油・為替の影響度

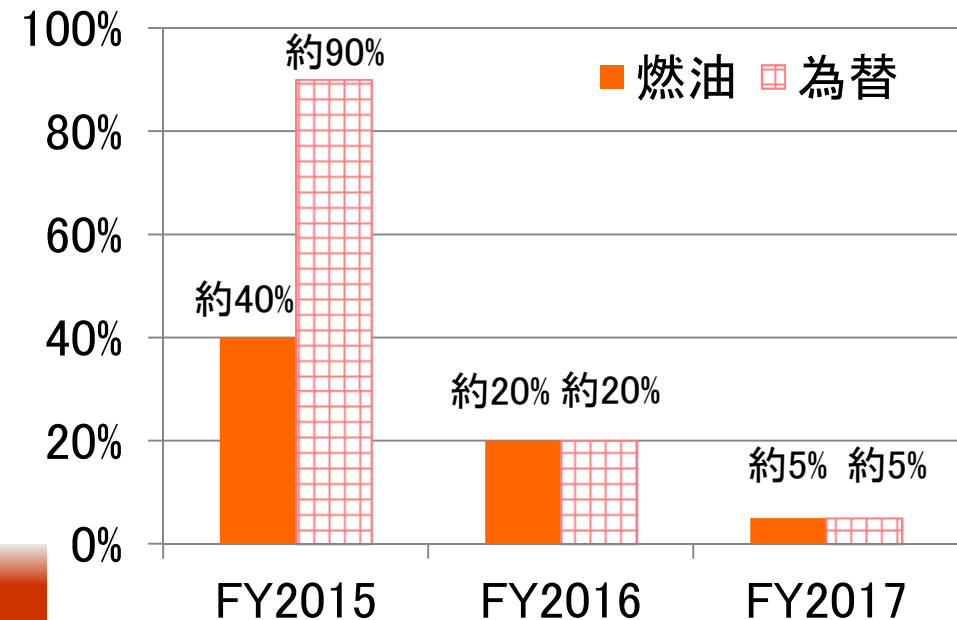


JAPAN AIRLINES

燃油費増減の推移



燃油費に対する年度別ヘッジ概況 (2015年9月末時点)



燃油・為替前提

	前年同期	第2四半期累計	前年同期比	2015年度見通し
為替 (円/USD)	102.2	121.8	+19.2%	123.4 (下期 125.0)
シンガポールケロシン (USD/bbl)	119.4	69.5	▲41.8%	70.3 (下期 71.0)
ドバイ原油(USD/bbl)	105.1	57.1	▲45.7%	56.1 (下期 55.0)

燃油費への感応度(ヘッジなし)

燃油費への影響(年間)

原油 (1USD/bblの変動)	約26億円
為替 (1円/USDの変動)	約17億円

■ 燃油費減少の要因につきましては、左上のグラフをご覧ください。

市況の下落により前年対比592億円減少したものの、円安のため168億円増加、搭載量やヘッジ損益等により135億円増加した結果、前年対比289億円減少いたしました。

2016年3月期 第2四半期末 連結財務状況

(単位: 億円)	前年度末 2015/3/31	第2四半期末 2015/9/30	前年度末差
総資産	14,733	15,112	+378
現金及び預金	3,649	3,860	+210
有利子負債残高 ⁽¹⁾	1,005	833	▲172
オフバランス 未経過リース料	1,250	1,108	▲142
自己資本	7,764	8,311	+546
自己資本比率 (%)	52.7%	55.0%	+2.3pt
D/Eレシオ(倍) ⁽²⁾	0.1x	0.1x	▲0.0x

✓ 有利子負債残高は返済等により172億円減少し833億円

✓ 自己資本比率は55.0%

注: (1)割賦未払金を含む
(2)D/Eレシオ=オンバランス有利子負債/自己資本

(参考) ※第2四半期末
オフバランス未経過リース料込みのD/Eレシオ:0.2x

- 有利子負債残高は、長期借入金やリース債務の返済を進め、前年度末から 172億円減少の833億円となりました。
- オフバランス未経過リース料は、前年度末から142億円減少して1,108億円となりました。
- 自己資本比率は、配当金の支払及び純利益の計上などにより、前年度末から2.3ポイント増加して55.0%に上昇しました。

キャッシュフローの状況(実績)



JAPAN AIRLINES

(単位:億円)	前年同期	第2四半期 累計	前年同期差
税金等調整前四半期純利益	918	1,236	+317
減価償却費	426	434	+7
その他	72	106	+34
営業キャッシュフロー合計	1,417	1,777	+359
設備投資額 ⁽¹⁾	▲772	▲973	▲201
その他	21	▲5	▲26
投資キャッシュフロー合計 ⁽²⁾	▲751	▲978	▲227
フリーキャッシュフロー ⁽³⁾	666	798	+132
有利子負債返済 ⁽⁴⁾	▲220	▲177	+43
配当金、その他	▲309	▲405	▲96
財務キャッシュフロー	▲529	▲583	▲53
キャッシュフロー合計 ⁽⁵⁾	136	214	+78
EBITDA	1,354	1,633	+278
EBITDAR	1,486	1,756	+269

注: (1)固定資産の取得による支出

(2)定期預金の入出金を除く

(3)営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

(4)長期借入金の返済+リース債務の返済

(5)営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー

- 営業キャッシュフロー合計は、前年同期比359億円増加の1,777億円となりました。
- 投資キャッシュフローでは設備投資額が前年同期比201億円増加しましたが、これは主に航空機投資等によるものであり、計画通りの進捗となっております。
- 財務キャッシュフローは有利子負債の返済、配当金支払などの結果、583億円のキャッシュアウトフローとなりました。キャッシュフロー合計では214億円のキャッシュインフローとなりました。

2016年3月期業績予想(連結業績)



JAPAN AIRLINES

(単位:億円)		前年度実績	2016年3月期 今回予想	前回予想 (2015/4/30公表)	予想 増減額
営業収益		13,447	13,470	13,280	+190
	国際旅客収入	4,548	4,580	4,450	+130
	国内旅客収入	4,875	4,970	4,940	+30
	貨物郵便収入	983	960	970	▲10
	その他の収入	3,039	2,960	2,920	+40
営業費用		11,650	11,430	11,560	▲130
	燃油費	2,825	2,470	2,650	▲180
	燃油費以外	8,824	8,960	8,910	+50
営業利益		1,796	2,040	1,720	+320
営業利益率(%)		13.4%	15.1%	13.0%	+2.1pt
経常利益		1,752	2,020	1,690	+330
当期純利益 ⁽¹⁾		1,490	1,720	1,440	+280
ユニットコスト(円) ⁽²⁾		8.9	9.2	9.0	+0.2

	2016年3月期 今回予想	前回予想 (2015/4/30公表)
ASK* 国際線	+1.5%	+3.1%
国内線	▲1.1%	+0.7%
ASK合計	+0.4%	+2.0%
RPK* 国際線	+6.7%	+5.9%
国内線	+0.3%	+0.8%
*前年度実績を100として		
為替(円/USD)	123.4	118.0
シンガポールケロシン (USD/bbl)	70.3	80.0
ドバイ原油 (USD/bbl)	56.1	63.0

- ✓ 燃油の市況前提を見直し
- ✓ 営業利益を上方修正

注:(1)当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

(2)ユニットコスト=航空運送連結費用(燃油費、収入費用両建ての関連会社向け取引を除く)/ASK

- 本ページで2016年3月期の連結業績予想をお示ししております。
- 利益予想については4月30日に公表した前回予想を上方修正しております。
- 今回、発表させて頂きました業績予想の前提でございますが、下期の為替及び燃油価格の前提を見直し、為替は1ドル125円、シンガポールケロシンは1バレルあたり71ドル、ドバイ原油は55ドルにそれぞれ変更しております。
- ユニットコストについては、円安の影響等により9.2円を見込んでおります。
- 当下期につきましても増収及び費用削減努力を継続し、利益の極大化を図ってまいります。

2016年3月期業績予想(貸借対照表/キャッシュフロー)



JAPAN AIRLINES

連結貸借対照表

(億円)	2015年3月期 実績	2016年3月期 今回予想	前回予想 (2015/4/30公表)	予想増減額
総資産	14,733	15,980	15,810	+170
有利子負債残高	1,005	860	860	-
自己資本	7,764	8,600 ⁽⁴⁾	8,940	▲340 ⁽⁴⁾
自己資本比率(%)	52.7%	53.8%	56.5%	▲2.7pt
ROE(%) ⁽¹⁾	20.3%	21.0%	17.2%	+3.8pt
ROA(%) ⁽²⁾	12.8%	13.3%	11.3%	+2.0pt

連結キャッシュフロー

(億円)	2015年3月期 実績	2016年3月期 今回予想	前回予想 (2015/4/30公表)	予想増減額
営業キャッシュフロー	2,611	2,940	2,610	+330
投資キャッシュフロー ⁽³⁾	▲1,992	▲2,060	▲2,150	+90
フリーキャッシュフロー ⁽³⁾	618	880	460	+420
財務キャッシュフロー	▲673	▲550	▲540	▲10
EBITDA	2,655	2,940	2,620	+320
EBITDAR	2,927	3,170	2,850	+320

注: (1)ROE = (当期純利益)/(期首・期末平均自己資本) 2016年3月期の当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

(2)ROA = (営業利益)/(期首・期末平均総資産) (3)定期預金の入出金を除く

(4)今期末に退職給付債務算定の前提を変更し、その他の包括利益累計額が約500億円減少する見込み

- このページでは、貸借対照表とキャッシュフローの予想をお示しております。
- 自己資本比率については、今期末に退職給付債務算定的前提を変更し、退職給付に係る負債額が約500億円増加する見込みであることから、前回予想より2.7ポイント減少し、53.8%を見込んでおります。
- フリーキャッシュフローについては、営業キャッシュフローの増加などから、前回予想に比べ420億円の増加を予想しております。

コーポレートガバナンス報告書の提出



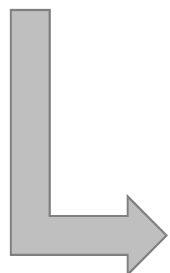
JAPAN AIRLINES

「コーポレートガバナンスに関する報告書」



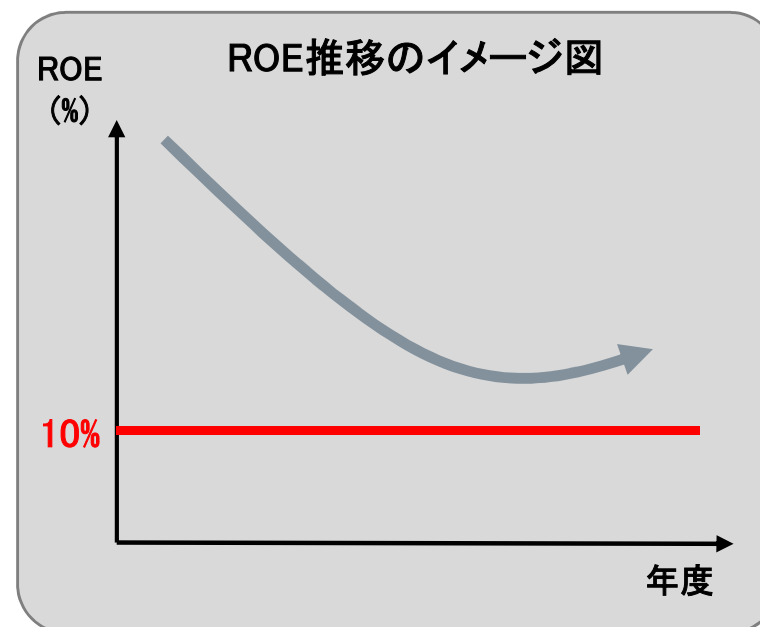
- ✓ 10月30日に東京証券取引所に提出済
- ✓ 「コーポレートガバナンス・コード」の各原則については全て実施する予定

「原則5-2(経営戦略や経営計画の策定・公表)」について、「資本効率等に関する目標」を記載



財務体質の健全性の確保を前提とした上で、
収益性と資産効率を高めることにより、

ROE10%以上の維持を目指す



- このページでは、コーポレートガバナンス報告書の提出についてご説明いたします。
- 当社は、本年6月より適用されているコーポレートガバナンス・コードに対応するべく、コーポレートガバナンス報告書を更新し、本日10月30日、東京証券取引所へ提出いたしました。
- 同報告書において、当社は資本効率に関する目標として、財務体質の健全性を確保した上で、収益性と資産効率を高めることにより、ROE10%以上の維持を目指すことを明記しております。
- なお、資料の最後に《参考》といたしまして、国際線収入大路別実績と、保有航空機一覧、2016年3月期業績予想(航空運送事業)をお付けしておりますので、ご参照ください。

明日の空へ、日本の翼



JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部 財務部

電話番号 03-5460-3068

《参考》国際線収入大路別実績



JAPAN AIRLINES

旅客収入(対国際線全体比率)

(単位:%)	前年同期	第2四半期 累計	前年同期差	第2四半期	前年同期差
太平洋線	36.5%	37.5%	+1.0pt	39.5%	+1.5pt
欧州線	18.5%	16.5%	▲2.0pt	16.5%	▲2.0pt
アジア・オセアニア線	33.5%	34.5%	+1.0pt	32.5%	+0.0pt
中国線	11.5%	11.5%	+0.0pt	11.5%	+0.5pt

ASK

(単位:百万席キロ)	前年同期	第2四半期 累計	前年同期比	第2四半期	前年同期比
太平洋線	9,068	9,774	+7.8%	4,963	+7.3%
欧州線	4,050	3,936	▲2.8%	2,001	▲3.9%
アジア・オセアニア線	9,038	8,889	▲1.7%	4,438	▲4.0%
中国線	1,831	1,640	▲10.5%	827	▲10.8%

RPK

(単位:百万人キロ)	前年同期	第2四半期 累計	前年同期比	第2四半期	前年同期比
太平洋線	7,440	7,953	+6.9%	4,117	+5.3%
欧州線	3,133	3,014	▲3.8%	1,639	▲2.4%
アジア・オセアニア線	6,414	7,049	+9.9%	3,545	+6.1%
中国線	1,196	1,292	+8.0%	648	▲1.1%

有償旅客数

(単位:千人)	前年同期	第2四半期 累計	前年同期比	第2四半期	前年同期比
太平洋線	951	1,016	+6.9%	528	+5.2%
欧州線	342	332	▲2.9%	181	▲1.6%
アジア・オセアニア線	1,960	2,056	+4.9%	1,032	+1.9%
中国線	641	687	+7.3%	344	▲2.2%

Load Factor

(単位:%)	前年同期	第2四半期 累計	前年同期差	第2四半期	前年同期差
太平洋線	82.1%	81.4%	▲0.7pt	83.0%	▲1.6pt
欧州線	77.4%	76.6%	▲0.8pt	81.9%	+1.2pt
アジア・オセアニア線	71.0%	79.3%	+8.3pt	79.9%	+7.6pt
中国線	65.3%	78.8%	+13.5pt	78.4%	+7.7pt

《参考》保有航空機一覧



JAPAN AIRLINES

		前年度末 2015/3/31			第2四半期末 2015/9/30			増減
		所有	リース	合計	所有	リース	合計	
大型機	Boeing 777-200	13	0	13	12	0	12	▲1
	Boeing 777-200ER	11	0	11	11	0	11	-
	Boeing 777-300	7	0	7	5	0	5	▲2
	Boeing 777-300ER	13	0	13	13	0	13	-
	大型機 小計	44	0	44	41	0	41	▲3
中型機	Boeing 787-8	20	0	20	22	0	22	+2
	Boeing 787-9	0	0	0	1	0	1	+1
	Boeing 767-300	13	0	13	12	0	12	▲1
	Boeing 767-300ER	24	8	32	26	6	32	-
	中型機 小計	57	8	65	61	6	67	+2
小型機	Boeing 737-400	12	0	12	12	0	12	-
	Boeing 737-800	21	29	50	21	29	50	-
	小型機 小計	33	29	62	33	29	62	-
リージョナル機	Embraer 170	15	0	15	15	0	15	-
	Bombardier CRJ200	9	0	9	9	0	9	-
	Bombardier D8-400	9	2	11	9	2	11	-
	SAAB340B	13	0	13	13	0	13	-
	Bombardier D8-300	1	0	1	1	0	1	-
	Bombardier D8-100	4	0	4	4	0	4	-
	リージョナル機 小計	51	2	53	51	2	53	-
	合計	185	39	224	186	37	223	▲1

《参考》2016年3月期業績予想(航空運送事業)



JAPAN AIRLINES

	国際旅客			国内旅客		
前年同期比% (座席利用率を除く)	上期 (実績)	下期 (予想)	2015年度 (予想)	上期 (実績)	下期 (予想)	2015年度 (予想)
ASK	+1.0%	+2.0%	+1.5%	▲1.2%	▲0.9%	▲1.1%
RPK	+6.2%	+7.2%	+6.7%	+0.6%	+0.0%	+0.3%
有償旅客数	+5.1%	+5.6%	+5.4%	+0.8%	▲0.1%	+0.4%
座席利用率 (%)	79.7%	79.4%	79.6%	66.8%	67.2%	67.0%
イールド	▲5.1%	▲5.9%	▲5.5%	+2.9%	+0.6%	+1.8%
ユニットレベニュー	▲0.3%	▲1.1%	▲0.7%	+4.7%	+1.5%	+3.1%
単価	▲4.1%	▲4.4%	▲4.3%	+2.6%	+0.7%	+1.7%

本資料には、日本航空株式会社(以下「当社」といいます)及びそのグループ会社(以下当社と併せて「当社グループ」といいます)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点(又はそこに別途明記された時点)において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点(又はそこに別途明記された時点)のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有していません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。